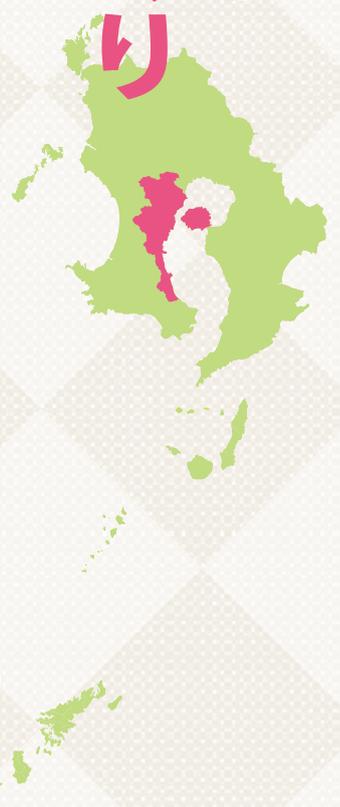


特集

トップ
インタビュー

自分らしく健やかに 暮らせるまちづくり



今回は、鹿児島市の下鶴隆央市長に健康に暮らせるまちづくりへのビジョンや、自身の健康法等について、お話を伺った。

**自分らしく健やかに
暮らせる安心安全なまちを
目指して**

—鹿児島市における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

“人生100年時代”とも言われる今日、自分らしく健やかに暮らし続けることは、多くの方の願いだと思います。

私は、令和2年の市長就任以降、市民の皆さんの健康寿命を延ばし、住み慣れたまちで安心して暮らしていただけるよう、体や心の健康づくりを推進し、福祉や保健サービスを充実するなど、様々な施策に取り組んできました。

市長就任後に策定した本市のまち

づくりの基本的な指針となる「第六次総合計画」では、都市像である「つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま」の実現に向けて、健康分野の基本目標に「自分らしく健やかに暮らせる安心安全なまち」を掲げ、健やかな暮らしを支える福祉サービスを充実するとともに、高齢者や障害者をはじめ、市民一人ひとりがともに支え合い、生きがいを持って自分らしく生活できる地域づくりを進めています。

また、本年度からは、今後12年間の健康づくり施策の指針となる「第三次鹿児島市健康増進計画（かごしま市民すこやかプラン）」がスタートしました。本計画では、「市民一人ひとりの健康状態の改善」と「社会環境の質の向上」を基本目標に掲げ、生活習慣の改善や生活習慣病の発症・重症化予防、社会全体で健康を支えるための環境整備など4つの基本方針のもと、ライフステージに応じた健康づくりや社会環境の改善に取り組

TOP
Interview

鹿児島市長 下鶴 隆央

むこととしています。さらに、本市国民健康保険においては、本年3月に策定した「第三期鹿児島市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）」に基づき、健康診査や保健指導、診療報酬明細書等のデータを分析し、幅広い年代の被保険者の健康課題を的確に捉え、その課題に応じた保健事業をPDCAサイクルに沿って行うことにより、健康の保持増進、生活の質（QOL）の維持・向上を図りながら、医療費適正化に取り組んでいるところです。

ご自分の健康管理のために是非ご利用いただきたいのが、各種検診や健康診査です。定期的な受診は、生活習慣病などを予防し、早期の発見や治療につながるとも言われています。私は、健康診断受診率向上のため、普及啓発のほか、受診者に対するインセンティブ（特典）を用意するなど、様々な対策を講じているところです。今後も、こどもから高齢者まですべての市民の皆さんが、自分らしく健康やかに暮らせるまちの実現に向け、各種施策を積極的に推進していきたいと考えています。

生活習慣病の 早期発見のために

—力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

本市国民健康保険の一人当たり医療費は、国や県、同規模都市に比べて高く、入院は同規模で3位、外来は同規模で5位、金額で見ると年間一人当たり医療費は同規模都市より約10万円高くなっています。特に人工透析患者の割合は、中核市の中で最も高く、新規透析患者を分析すると約9割が高血圧、8割が糖尿病を基礎疾患にかかえており、生活習慣病の重症化予防は重要な課題です。

これらの疾患の早期発見、重症化予防には、生活習慣病に着目した健診である特定健診が有効ですが、受診率は国の目標60%に対し、34.5%と伸び悩んでおり、受診率の向上が求められています。

このような状況の中、本市が受診率向上のために実施している健診受診者に対するインセンティブの取り組みについてご紹介します。

まず、「特定健診トク得クーポンの交付」ですが、全国健康保険協会鹿児島支部と共同で実施しており、健

診受診者全員が登録店舗等で無料体験や割引などの特典を受けることができるもので、受診率の向上や健康づくりの推進を目指しています。

次に、「市内の温泉入浴券の交付」ですが、本市国保独自のもので、健診受診者のうち受診率が約15%と極めて低い40歳代など特定年齢の方を対象に「入浴券」を交付しており、主に若い世代の受診率向上を目指しています。銭湯と温泉が暮らしに根付いている温泉県鹿児島の特性を活かした取り組みは、受診率向上の一助となることが期待されます。



市内の温泉入浴券

また、保健事業の取り組みの1つとして、本市国保の重要な課題となつていく新規人工透析患者の減少を目的として、「糖尿病性腎症重症化予防」に力を入れています。特定健診の結果から、かかりつけ医、糖尿病専門医、基幹病院等への受診を促す基準を設

け、必要に応じ専門医への連携を行う病診連携体系を構築するとともに、保健センターの保健師、管理栄養士等の専門職がかかりつけ医と連携した保健指導を実施しています。

生活習慣病の発症・重症化予防は、健康寿命の延伸及び医療費適正化のためにも大変重要な課題であると認識しており、更なる特定健診、特定保健指導の受診率向上に力を入れ、今後も、市民が健康で安心して暮らせるまちづくりを推進していきます。

まちの魅力を感じながら 楽しく散策

—市長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃる点があります。私がお聞かせください

私が健康でいるために普段から心がけていることは、まずは睡眠時間をしっかりと確保することです。あらゆる物事を判断することが私の仕事です。そのためには、頭がクリアな状態で臨むことが大事だと考えています。もちろん、忙しいときや思い悩むときなど多々ありますが、夜に疲れた状態で考えていても真つ当な判断などできません。そこは割り切つて寝ることとし、翌日に万全な状態で考えるとい

うことを心がけています。

二つ目は、子どもと遊ぶことです。まだ幼いため、公園でブランコを押してあげたり、遊具をぐるぐる回してあげたり、高い高いをしてあげたり。そのような子どもとの楽しい触れ合いが、自然と身体を鍛えるトレーニングになっていきます。

三つ目は、歩くことです。出張先では、どのようなまちづくりを行っているのか視察することも兼ねて、散策するように心がけています。私自身、まちを歩いてまわることが一番その街の魅力を感じることができると考えています。本市におきましても、鹿児島中央駅や天文館などの交流拠点をつなぎ、歩いて楽しめるまちづくりを推進していますので、これからも多くの方が歩きたくなるような、魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えています。

食欲の秋、芸術の秋、まちを彩る多彩なイベント

最後に何か鹿児島市のPRがございましたらお聞かせください

本市は、雄大な桜島と波静かな錦江湾に代表される多彩な自然、世界に誇りうる魅力ある歴史・文化など

豊かな地域資源に恵まれ、商業・交通などの多様な都市機能が集積する南九州の中枢中核都市です。

これから本格的な秋の行楽シーズンを迎えるにあたり、まずご紹介したいのは、毎月第四週末に開催の「甲突川リバーサイドフェス」です。昨年9月に開始したこのイベントは、鹿児島多くの偉人が生まれ育ち、幕末・明治の歴史を刻んできた甲突川周辺を舞台に、キッチンカーや雑貨販売等のマルシェ、甲突川を生かした体験コンテンツなど盛りだくさんの内容となっておりますので、多くの皆さんに散策しながら食事や買い物、体験を楽しんでいただきたいと思います。次にご紹介するのは、鹿児島の秋の



昨年の甲突川リバーサイドフェスの様子

風物詩、11月2日・3日に開催する南九州最大の祭り「おはら祭」です。鹿児島を代表する民謡「おはら節」や「鹿児島ハンヤ節」「渋谷音頭」にあわせて練り踊る「総踊り」のほか、おごじよ太鼓競演、マーチング、ダンス「オハラ21」等が行われ、天文館一帯がにぎわいます。「飛び入り連」では誰でも飛び入り参加で踊ることができ、ぜひ多くの皆さんにお越しください。熱気あふれる「おはら祭」を体感していただきたいと思います。

このほかにも、アジア各国・地域の伝統音楽、伝統舞踊の披露のほか、文化体験や食の魅力を楽しめる「アジアん・鹿児島2024」第17回かごしまアジア青少年芸術祭」(10月



昨年のおはら祭の様子

19日・20日)や県内外から多くのジャズファン・音楽ファンが訪れる野外音楽イベント「鹿児島ジャズフェスティバル2024」(10月19日・20日)、音楽や伝統芸能などの文化芸術に触れ楽しむことができる「かごしままちなか文化彩」(10月26日)などのほか、平川動物公園やかごしま水族館、グリーンファーム(観光農業公園)などの観光施設においても、秋をテーマとした様々なイベントを実施していく予定です。

ぜひ、この機会に本市にお越しいただき、本市の多彩な魅力をじっくりと堪能していただきたいと思います。



昨年のかごしまアジア青少年芸術祭の様子